

平成 20、21 年度  
中期目標の達成状況報告書  
(別添資料)



平成 2 2 年 6 月

九州工業大学

## 目 次

1 教育に関する目標1 教育の成果に関する目標

資料1-1-2-①	自学自習力育成による学習意欲と学力の向上 (初年次教育における基礎学力と学習意欲の充実)を図る取組	1
資料1-1-2-②	学習・教育目標に照らした学習の達成度を自己評価し改善する取組	2
資料1-1-3-①	PBL (Project-Based Learning) 教育を機軸とするカリキュラムの 開発・整備に関する取組	3
資料1-1-3-②	新たに問題提案型の授業を組み込む授業科目・卒業時アンケート結果	3
資料1-1-5-①	国際先端情報科学者養成プログラム	4
資料1-1-5-②	TOEIC受験を支援するための教材の充実	4
資料1-1-10-①	戦略的大学連携支援事業による他大学との大学院連携教育	5
資料1-1-10-②	九州歯科大学との歯工学連携教育に関する教育	5
資料1-1-10-③	P S P	5
資料1-1-11-①	企業に求められるプロジェクト・リーダー型博士技術者を育成する プログラム	6

2 教育内容等に関する目標

資料1-2-16-①	平成21年度高校訪問	7
資料1-2-16-②	出張オープンキャンパス・国立高専生対象進路支援セミナー	7
資料1-2-16-③	飯塚サイエンスギャラリー	7
資料1-2-19-①	学習・教育目標とシラバスの活用に関する調査等	8
資料1-2-19-②	学習・教育目標を記載した名刺大のカード	8
資料1-2-30-①	九州経済連合会 平成21年度リアルPBL成果報告会	9
資料1-2-30-②	中小企業高度人材確保のため長期企業内実務研修制度整備委託事業	9
資料1-2-32-①	英語自主学习教材 ALC NetAcademy	10
資料1-2-32-②	教材作成支援室	10
資料1-2-32-③	遠隔教育・e-ラーニング高等教育連携(単位互換)	10

3 教育の実施体制等に関する目標

資料1-3-44-①	利用者サービス向上状況	1 1
資料1-3-44-②	学生選書ツアー	1 1

4 学生への支援に関する目標

資料1-3-45-①	平成 20 年度 CSI 委託事業報告交流会（コンテンツ系） ホスターセッション優秀ポスター賞受賞	1 2
資料1-3-45-②	第5回DRFワークショップ 2009年、いま改めてリポジトリで講演を実施	1 2
資料1-3-45-③	Webオープンキャンパス（情報工学部・生命体工学研究科）	1 2
資料1-3-45-④	創立 100 周年記念事業（式典・企画展）と 企画展「安川敬一郎と戸畑一明専のあるまち」	1 2
資料1-3-48-①	九州工業大学における教育職員の評価について（21年度実施分）	1 3
資料1-4-49-①	学生生活実態調査結果	1 4
資料1-4-49-②	学習支援室について	1 4
資料1-4-51-①	キャンパスライフの改善	1 5
資料1-4-51-②	通学環境の改善（スクールバスの試行運転実施）	1 5
資料1-4-52-①	新入生研修での講演等	1 6
資料1-4-52-②	キャンパスライフサポート案内	1 6
資料1-4-53-①	ハラスメント防止講演会	1 7
資料1-4-53-②	ハラスメント体制の検討状況	1 7

2 研究に関する目標1 研究水準及び研究の成果等に関する目標

資料2-1-2-①	グリーンキューブ実験施設	1 8
資料2-1-2-②	エコエネルギー研究プロジェクト	1 8
資料2-1-2-③	若手研究者交流支援事業－東アジア首脳会議参加国からの若手研究者 招へい－ 「アジア諸国と協調したエコエネルギーデザイン研究プロジェクト」	1 8
資料2-1-2-④	経済産業省「低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム 実証モデル事業」概要	1 9
資料2-1-2-⑤	ソフトコンピューティング技術による「てんかん」原性域の特定と低侵 襲治療法の確立	1 9

資料2-1-2-⑥	エコ大学ランキング結果	20
資料2-1-5-①	教育研究プロジェクト推進会議	20
資料2-1-5-②	若手研究者交流事業での交流相手機関	20
資料2-1-6-①	発展・高度化させた研究プロジェクトの事例	20
資料2-1-6-②	トヨタ自動車九州との産学協同研究	21
資料2-1-8-①	「世界トップレベルの研究」の定義（抜粋）	21
資料2-1-8-②	九工大発の先進的研究の例	22
資料2-1-8-③	学内の大型研究グループの促進	22
資料2-1-8-④	平成 20・21 年度の卓越した研究一覧	23
資料2-1-9-①	英文校正・論文掲載費用補助制度	24
資料2-1-9-②	英文校正・論文掲載費用補助制度の利用実績	24
資料2-1-9-③	研究戦略室の取組	24
資料2-1-9-④	主要論文掲載数・主要国際会議発表数の推移	24
資料2-1-12-①	外部評価委員からの指摘事項等	25
資料2-1-12-②	外部評価の掲載例	25
資料2-1-12-③	研究成果発表会実績	25
資料2-1-13-①	研究戦略室の室員の増強	26
資料2-1-13-②	教員別外部資金獲得金額・主要論文掲載数一覧表	26
資料2-1-13-③	若手研究者や女性研究者を育成する研修会及び講習会	27
資料2-1-15-①	「エコエネルギー研究プロジェクト」における研究体制	27
資料2-1-15-②	「パワーデバイス技術の集積による次世代グリーンエレクトロニクス 研究推進プロジェクト」における研究体制	27
資料2-1-17-①	RA 及び RA 指導教員へのアンケート調査	28
資料2-1-27-①	Web による物品検索機能	28
資料2-1-27-②	学内共同教育研究施設等の保有機器の学内利用実績の推移	28

### 3 社会との連携、国際交流等に関する目標

#### 1 社会との連携、国際交流等に関する目標

資料3-1-12-①	平成21年度チューターとの懇談会実績報告書及び国際連携推進室要項 (抜粋) . . . . .	29
資料3-1-12-②	新たな支援事業 . . . . .	29
資料3-1-14-①	日本語補講及び「科学技術日本語」について . . . . .	30
資料3-1-14-②	市民ボランティアによる日本語講座 (飯塚キャンパス) . . . . .	30



資料 1-1-2-①

○ 自学自習力育成による学習意欲と学力の向上（初年次教育における基礎学力と学習意欲の充実）を図る取組

大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム(平成21年度～) (出典：本学 HP)

取組の趣旨

初年次教育に着目し、専門教育に入るための基礎学力の伸長および学習意欲の向上を図ります。  
 多様な学力レベルの学生に対応した基礎教育(数学・物理・英語・情報)を展開します。習熟度別授業や個別指導を行い、学習コンシェルジェ(学習相談室)を開設するなど、学力に応じた学習環境を整えて基礎教育の充実を図ります。さらに、自学自習用のeラーニング教材を開発し、学習に対する興味や関心を喚起するワークショップを開催するなど、学生の学習習慣や学習意欲を向上させる機会を提供して自己学習力を育成します。



基礎学力の育成

入学前研修およびeラーニングで大学入学時の基礎学力を保証するとともに、初年次教育を中心に、習熟度別学習や個別指導を行い、数学・物理・英語・情報の基礎学力を育成して、いわゆる「落ちこぼれ」や「浮きこぼれ」が起きないように全学年の学力向上をめざします。

自学学習力の育成

学習意欲を向上させるために、「できる」ことをまず学生に確認させて自信を持たせ、次の段階の学習へと進む「意欲」を引き出します。容易な課題から難度の高い課題までをカバーするスモールステップ方式の自学自習教材を開発し、学生個々の学力に応じた課題を自学自習させます。

同時に自学自習を支援するための学習コンシェルジェを設置し、学習アドバイザーを配置して学習内容および学習方法の個別指導を行い、基礎学力および自学自習力を向上させます。

(出典：本学 HP)

(学生周知ポスター)

(学習指導カルテシステム) 対応教員が学習指導の履歴を残す

(出典：情報工学部)

資料 1-1-2-②

○ 学習・教育目標に照らした学習の達成度を自己評価し改善する取組

「特色ある大学教育プログラム」(平成19年度～平成21年度)

(出典：本学 HP)

○ 取組概要

学生の学修自己管理能力と学修意識を高めることを目的として、「学習成果自己評価シート」を用いた、学生自身による学習・教育目標の達成度評価を実施して来た。この実績をもとに、「学修自己評価システム」を開発し、学生自身により学修目的と動機を明確化し、自己管理能力の向上を図れるようにした。さらに、自分の学修成果物を記録・保管するよう拡張し、この「学修自己評価システム」を活用して、学修意識を高める取組を行った。



● 取組の内容・ポイント

1. 単位の取得から達成度の評価へ  
学生自身が学習・教育目標の達成度を確認しながら、計画的な履修を図る
2. 学修の自己管理能力の育成  
年2回、学期の終了ごとに達成度を自己評価して次学期の履修方針を立てる
3. 教員の連携による組織的指導の推進  
指導教員、学年担当、学務委員、学科長などの学生指導に関わる教員間で情報を共有し、連携を促進する
4. 学修成果の蓄積によるキャリア形成  
クラブ活動、ボランティア活動、インターンシップなどの成果や報告書、プレゼンテーション資料、卒業研究月間報告などの学修成果物を記録

● 取組の成果

- ・ 達成度評価  
目標とゴールの設定、科目別達成度評価、自己採点の入力、達成度の点検、学修意識の自己チェック、自己評価の総括
- ・ 学修成果蓄積  
マイポートフォリオ、公開ポートフォリオ
- ・ 学部の80%以上の学生が利用
- ・ 学生と教員のコミュニケーション、教員間のコミュニケーション
- ・ シンポジウムを2回開催(飯塚市、福岡市)
- ・ 自己採点、学期GPA、学修意識の変化と相関を調査
- ・ 卒業生アンケート(役に立った科目、勉強しておくべき科目)

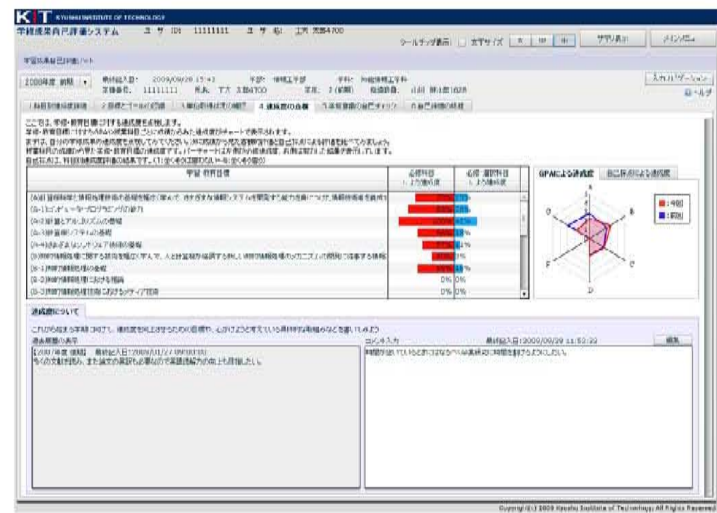
● 学内外からの評価

- ・ 講演依頼(7件)、訪問者(44名)
- ・ 学外からのシンポジウム参加者(飯塚24名、福岡68名)
- ・ 新聞取材(2件)

学修自己評価システム

科目別達成度評価 画面

達成度の点検 画面



その他画面：

自己採点、目的入力、学修意識の自己チェック、自己評価の総括、教員メモ



## 資料 1-1-3-①

## ○ PBL (Project-Based Learning) 教育を機軸とするカリキュラムの開発・整備に関する取組

平成 20 年度「質の高い大学教育推進プログラム」

(出典：本学 HP)

## ● 取組の内容・ポイント

## 目的

従来の教育スタイルである「講義」と「実験・演習」の積み上げ(詰め込み型教育、系統的教育)では、拡大し続ける学問分野を網羅できないだけでなく、学生の目的意欲も低下させる。

知識や技術を単に伝授するのではなく、  
学生個々の方法論獲得に誘導することが大学教員の使命

PBL 基軸教育により実現

## 取組内容

- 1. PBLを基軸とするカリキュラムの開発・整備**
  - 総合システム工学科をモデルケースとして実施(平成20年度新設)  
(3年次までの全学期にPBL必修科目を配置)
- 2. 教育環境・学習環境の整備**
  - プロジェクトラボラトリ設立  
(創造性涵養に適した魅力あるスペース構築)
- 3. PBL教育の運営・管理体制の整備**
  - PBL教育運営会議設置  
(PBL科目運営要領を作成)



## ● 取組の成果

- 1. PBLを基軸とするカリキュラムの開発・整備**
  - PBL科目の出席率100%実現
  - 工学部他学科(応用化学科)学生実験にCPBL要素手法の新たな導入を開始(平成21年度～)
- 2. 教育環境・学習環境の整備**
  - プロジェクトラボラトリによる効率的なPBL教育実現
  - 講義時間外での学生の自発的使用



- 3. PBL教育の運営・管理体制の整備**
  - PBL科目成績評価指針確立(レポート30%、コミュニケーション20%、プレゼン30%、学生相互20%)

## ● 学内外からの評価

- 外部評価委員会(学外PBL工学教育推進者3名)
- 学生からプロジェクトラボラトリに関する評価をフィードバック(使用ノートパソコン増設、プロジェクト増設)

## 資料 1-1-3-②

## ○ 新たに問題提案型の授業を組み込む授業科目・卒業時アンケート結果

(出典：本学HP・情報工学部)

科目名：超PBLプロジェクトS : Super PBL project S

対象分野科目 選択科目 2単位 3年 後期 金曜3限目 金曜4限目 金曜5限目

## 授業の概要

本講義では、目標達成型のシステム創成プロジェクトに続く、問題発見型のプロジェクトとして位置づけ、以下の3つの項目を行う。

- プロジェクトマネジメントを意識したものづくり法
- 自由な課題によるものづくり、奇想天外な発想によるアイデアなどを求める。
- プレゼンテーションと評価

## カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

システム創成プロジェクトをはじめとして、これまでのPBL型プロジェクトでは、はじめに課題を与えておき、評価にはその達成度や完成度を求めている。しかし、課題探求能力を求めるには更に踏み込んで「課題を考える」ことも重要となる。この科目では、システム創成プロジェクトに続くPBL教育の最終段階として、「課題提案」そのものを求めるプロジェクト型授業として位置づけとする。

## 卒業時アンケート(項目評価:問題解決力)H21. 3

学 科	①強くそう思う	②そう思う	①+②/全体
知能情報工学科	15.0%	70.0%	85.0%
電子情報工学科	11.8%	72.1%	83.8%
システム創成情報工学科	9.1%	77.3%	86.4%
機械情報工学科	11.0%	73.2%	84.1%
生命情報工学科	13.8%	68.8%	82.5%
全 体	12.2%	71.9%	84.1%

## 資料 1-1-5-①

## ○ 国際先端情報科学者養成プログラム International Informatics Frontier

【平成 20 年度入学生・試行，平成 21 年度入学生より正式運用開始】

(出典：本学 HP)

(プログラムの学習・教育目標)

1. 情報工学の基礎、および、各専門分野について、英語を使った技術的なプレゼンテーション、コミュニケーション、ディスカッション能力を養成します。
2. 国際的に活躍できる技術者に必要な素養として、プロジェクトマネージメント・セルフマネージメント能力、および、経済学の基礎を含むエンジニアリングエコノミクスの知識を身につけます。
3. 英語を使った円滑な異文化コミュニケーションのため、日本の歴史・文化への造詣を深め、また、外国の文化を理解・尊重する感覚を養成します。

(カリキュラムについて)

各学科・専攻における卒業・修了要件に付け加え、プログラム修了のため以下の科目を履修することとします。

1 年前期～	クラスワーク		入門・モチベーション向上教育等. 随時実施
1 年前・後期	上級実践英語	1 コマ	
1 年前期集中	英語による理数系科目	1 コマ	英語で講義
1 年後期集中	Computer Literacy	1 コマ	英語で講義
1 年	留学(1)		夏か春に 2～5 週間
2 年前期	Presentation & Discussion	1 コマ	時事・技術雑誌のプレゼンテーション
2 年後期	Scientific Writing	1 コマ	e-mail・手紙の書き方/履歴書/レジュメ/ 注文・クレーム等
3 年前・後期	PSP(personal software process)	2 コマ	プロジェクト管理基礎
3 年次以降	留学(2)		5 週間
4 年(大学院合同開講)	エンジニアリングエコノミクス	1 コマ	
M1 または M2	TSP(Team software process)	1 コマ	プロジェクト管理応用
M1 前期	Engineering Presentation	1 コマ	卒論を英語でプレゼンテーション

## 資料 1-1-5-②

## ○ TOEIC受験を支援するための教材の充実

関係図書購入実績

(出典：附属図書館)

	H20 年度	H21 年度
英語授業用リーダース	175	727
TOEIC 関係書籍	91	148

平成 21 年度において、英語及び TOEIC 関係の書籍を大幅に充実した。

「英語」課題図書

Penguin Readers の本全てと、Book Worms の「ハムレット(Hamlet)」は課題図書には含まれません。  
Dominoes, または Book Worms の本の中から選んでください。

どの本を読むべきかの目安を書いていますので、自分の TOEIC スコアを考えて、なるべく自分のレベルに合った本を選んでください。

レベル	TOEIC score
Starter/Easy starts	～300
Level 1	250～380
Level 2	310～520
Level 3	380～610
Level 4	450～700
Level 5	520～750
Level 6	700～950



資料 1-1-10-①

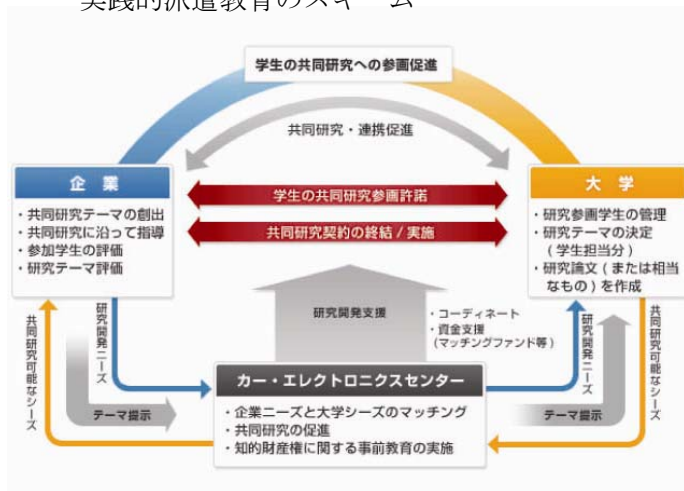
○ 戦略的大学連携支援事業による他大学との大学院連携教育

平成 20 年度採択・平成 21 年度より実施

(出典：本学 HP)

実践的派遣教育のスキーム

共同研究の場を活用した実践的な教育



	北九州市立大学	九州工業大学	早稲田大学
各大学の強み	情報通信 組込みシステム技術	脳情報工学 人間観和性技術	LSI 設計技術 情報アーキテクチャ 計測・制御工学
単位互換	組込みシステム 開発演習 車載向け LSI 設計演習 高信頼システム	車載用知的 情報処理 組込みシステム実習	インテリジェントカー 統合システム 自動車工学
	ソフトウェア工学概論 組込みソフトウェア ビークル制御 適応信号処理	生体機能代行工学 視覚認知機構 脳型パターン認識 ロボット制御 有機エレクトロニクス	設備診断技術
互換なし	オペレーティング システム ソフトウェア検証論 視覚情報処理 画像処理 移動通信 テスト自動化設計 知能メカトロニクス	生体インターフェース 脳型集積回路工学 I ロボットインタフェース 生体情報システム	進化的最適計算 線形システム論 機械要素設計 アナログ LSI 設計 パタン確認 計測工学 デジタル LSI アーキテクチャ

※ 囲みは基幹 7 科目（職業観の育成と先端技術等についての専門教育やビジネスに直結する実践的教育を実施するために新設した科目。）

資料 1-1-10-②

○ 九州歯科大学との歯工学連携教育に関する教育

平成 20 年度の協定の締結に基づき、歯工学連携教育研究センターを設置し、連携による歯工学分野における学際的・融合的な教育研究を推進し、大学院教育の飛躍的な発展充実を目指す。

(出典：大学院学生便覧)

(九州工業大学開講科目) 6 科目

知的システム構成特論、分析化学特論、センサ化学特論、  
生体機能材料、生物機能物質、環境修復機能

(九州歯科大学開講科目) 8 科目

歯科放射線学概論、顎顔面外科学概論、化学感覚受容概論、先進歯髄疾患治療学概論、  
骨分子生物学概論、摂食嚥下学概論、歯周病学概論、細胞生物学概論

資料 1-1-10-③

○ PSP

(出典：情報工学部)

Personal Software Proccess (パーソナルソフトウェアプロセス:PSP) は、W.Humphrey 博士が米国カーネギーメロン大学ソフトウェアエンジニアリング研究所 (SEI) に於いてソフトウェアプロフェッショナルが身に付けるべきプロセス改善能力とスキルを明らかにし、その修得を可能にする教育プログラムとして開発したものである。



## 資料 1-1-11-①

## ○ 企業に求められるプロジェクト・リーダー型博士技術者を育成するプログラム

平成 21 年度「組織的な大学院教育改革推進プログラム」

(出典：本学 HP)

## 本教育プログラムの特色

本教育プログラムに参加の学生を、自らの研究テーマと関連する高度実践的な開発プロジェクト（RoDP：Research-oriented Development Project）のリーダーとして抜擢し、連携する企業との共同作業のマネジメントというタスクを課すとともに、各開発段階のレビュー会議の運営、実験等の現場指揮等を通じた開発プロセスの実践により、従来の座学では学べない実務的経験の獲得を通して行うことにより、プロジェクトをリードする博士技術者として育成します。

この教育プログラムは、三つの柱から成ります。

- (1) 専攻横断型開発プロジェクトを基軸とした履修プログラムの構築
- (2) 産業界での活動に必要な履修科目の新設と既存科目の選択必修化
- (3) プロジェクト・スーパーバイザー・チームによる指導体制

## 博士前課程から開発プロジェクトに参加

博士前期課程では課程 B の学生として開発プロジェクトに参加し、新設の「実践的システム工学特論（設計・製作・運用）」を履修します。

## プロジェクトの成果作成で、終了プロジェクトの単位を授与

開発プロジェクトの成果をまとめ上げることで、修了プロジェクト（修士論文相当）の単位が授与されます。

## 外国大学への学生の派遣

研究テーマや開発プロジェクトに関連して、外国大学に短期派遣します。

## 企業プロフェッショナルの講師陣

新設科目「開発プロジェクト特論」、「システム工学特論」では、航空宇宙・自動車・鉄道車両・原子力・交通システム等の先端企業分野で経験豊かな企業のプロフェッショナル達を講師として招きます。

## 外国大学教員の招聘と特別講義

開発プロジェクトに関連する研究テーマで、外国大学から招いた教員による英語特別講義が受けられます。

## クォーター制の導入

開発プロジェクト RoDP を基軸とした教育上の目標を達成するために新設の実践科目についてはクォーター制を導入します。

## 最短 4 年で博士号取得

新設科目の集中講義、クォーター制科目の導入により最短 4 年で博士号取得を目指します。

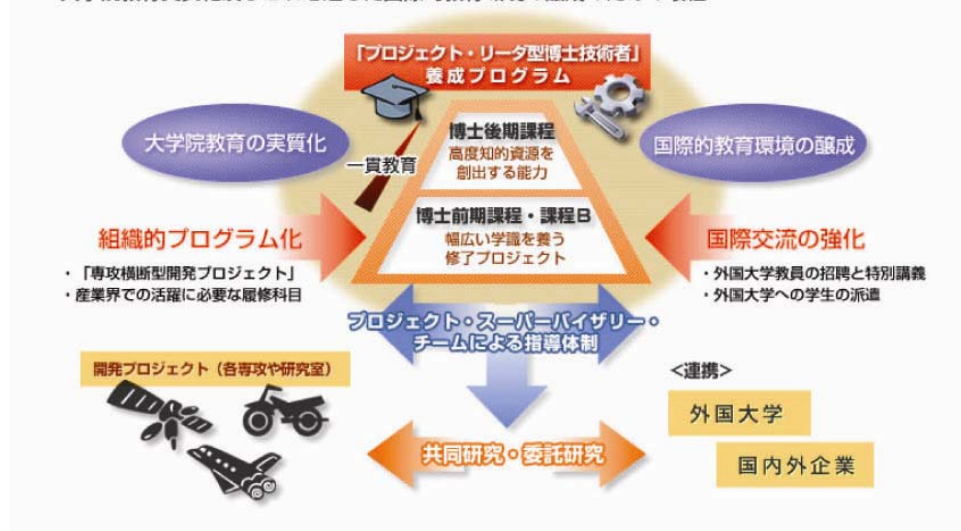
## プロジェクト・スーパーバイザー・チームによる進路指導

博士号取得後に希望する企業への就職をプロジェクト・スーパーバイザー・チームが支援します。

## 博士前期より TA・RA の給与支給

博士前期課程から授業料相当額の手当て（TA・RA の給与）を支給します。

## 大学院教育実質化及びこれを通じた国際的教育環境の醸成のための取組



資料 1-2-16-①

○ 平成 21 年度高校訪問 <平成 19 年度比 150%増の高校訪問を実施> (出典：入試課)			
5月中旬～ 11月上旬 12月～ 3月中旬	高校へ出向き大学説明を行う 前半期には高校生向け、 後半期には進路指導教員等向け	282 校で実施 (県内 86 校、 県外 196 校)	学生募集専門部会委員を中心と する各学部学科等の教員

資料 1-2-16-②

○ 出張オープンキャンパス (出典：本学 HP)		国立高専生対象進路支援セミナー (出典：本学 HP)	
日時：平成 21 年 8 月 22 日 (土)・23 日 (日) 10：00～19：00 <b>1,300 名以上の来場</b>		日時：平成 22 年 3 月 6 日 (土) 13：30～17：00 <b>400 名以上の来場</b>	
場所：天神イムズ イムズプラザ (地下 2 階) 福岡市中央区天神 1-7-1 1		場所：九州工業大学 飯塚キャンパス	
			
 <p>伝導浮上実験を体験</p>		 <p>全体説明</p>	

資料 1-2-16-③

○ 飯塚サイエンスギャラリー (出典：本学 HP)		
日時：平成 22 年 3 月 22 日 (月) 13:00～17:00 <b>オープニング・セレモニーの 来場者約 300 名</b>		 <p>展示コーナー</p>
場所：九州工業大学 飯塚キャンパス		

## 資料 1-2-19-①

## ○ 学習・教育目標とシラバスの活用に関する調査等

(出典：工学部)

(学習・教育目標とシラバスの活用に関する調査)

(調査後、説明・配付資料)

平成 21 年度後期

学習・教育目標とシラバスの活用に関する調査

工学部教務委員会

(質問1)  
工学部は機械・建設・電気・物質材料など産業基盤をなす技術分野に根を下ろし、そこからエネルギー、宇宙、ロボット、環境・都市、エレクトロニクス、新機能物質、ナノテクノロジーなど、新技術の開発に打ち込んでいます。この目標を達成するために、もう少し具体的な課題が「学習・教育目標」として学科ごとに決められています。これは、4年卒業時における到達目標です。この到達目標について以下の選択肢からひとつ選んで、番号に丸印をつけてください。

- 十分に把握しており、この目標に向かって学習を行っている。
- かなり把握しており、この目標に向かって学習を行っている。
- 学習・教育目標があることは知っているが、学習にあまり反映させていない。
- 学習・教育目標について、殆ど把握していない。

(質問2)  
シラバスの活用(教務情報のウェブ化も含む)について以下の選択肢からひとつ選んで、番号に丸印をつけてください。

- 学習において、シラバスを十分に活用している。
- 学習において、時々シラバスを活用している。
- 学習において、シラバスをあまり活用していない。
- 学習において、シラバスを殆ど見ない(活用していない)。

あなたの学年、所属学科、コース名をご記入ください。  
学年 (            ) 学科 (            ) コース (            )

ご回答、有難うございました。

平成 21 年度後期

以下、調査に関する資料です。確認しておいてください。

- 1. マテリアル工学科における学習・教育目標**  
数学、自然科学、情報技術などの工学基礎およびマテリアルの構造・性質、機能・設計、及びプロセスについての専門科目を「マテリアル工学プログラム」に従って学び、以下の能力の修得を学習目標にしています。
  - ・ 地球的規模でものごとを考える能力
  - ・ 技術者として自然・環境および社会に対して責任のある自覚が持てる能力
  - ・ マテリアル工学を理解するための基礎的な数学および自然科学の知識の修得とそれらに応用する能力
  - ・ マテリアル工学の基礎知識および専門知識
  - ・ ITを活用して、マテリアルおよびもの創りの設計・調査・製作ができる基礎的能力
  - ・ 相手の意見を聞いて理解することができ、それに対しての受け答えや自分の考えを相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力
  - ・ 技術者として国際的なコミュニケーションに参加できる基礎的能力
  - ・ もの創りの一連の流れを修得し、実行に移すことができる基礎的能力
  - ・ チームワークの一員として、物事を成し遂げようとする能力
  - ・ 与えられた課題に対し、自分でまとめることができ、文章で相手に意味を伝える能力
- 2. シラバスの活用について**
  - (1) 各学科(コース)の学習・教育目標はシラバスの中に記載されています。
  - (2) シラバスには科目の系統図があり、科目間の関連が一目で分かります。
  - (3) シラバスには授業の計画、評点付けの方法、オフィスアワーなども記載されています。
  - (4) シラバスを含めた教務情報は殆どウェブ上で確認可能です。  
工学部のシラバスは、  
大学のトップ (<http://www.kyutech.ac.jp>) から工学部を選択し、戸畑キャンパスのページから入る。  
シラバスも含む教務情報は、  
大学のトップ (<http://www.kyutech.ac.jp>) から「在学生のみなさまへ」を選択し、教育支援課のページから入る。

今回のアンケートを契機にして、シラバスの確認、ウェブ上の教務情報の確認を行ってください。

## 資料 1-2-19-②

## ○ 学習・教育目標を記載した名刺大のカード

(出典：情報工学部)

(表面)



## 知能情報工学教育 プログラムの学習・教育目標

- 計算機科学と情報処理技術の基礎を幅広く学んで、さまざまな情報システムを開発する能力を身につけた情報技術者を養成する。
- 知的情報処理に関する技術を幅広く学んで、人と計算機が協調する新しい知的情報処理のメカニズムの開発に従事する情報技術者を養成する。
- 情報の収集と分析を通して解決すべき問題を整理し、その解決方法を見つけ出す能力を身につけた情報技術者を養成する。

(裏面)

- 数学および自然科学の基礎を幅広く身につけた情報技術者を養成する。
- 国際性、社会性、人間性を備えており、広い視野と教養を持つ健康な情報技術者を養成する。
- 情報技術が社会におよぼす影響に関心があり、責任ある社会的行動ができる情報技術者を養成する。
- 論理的な記述能力、口頭発表や討論などのコミュニケーション能力、および外国語によるコミュニケーション能力を備えた情報技術者を養成する。

## 資料 1-2-30-①

## ○ 九州経済連合会 平成21年度リアルPBL成果報告会

(出典：九州経済連合会)

## 九州経済連合会 平成21年度リアルPBL成果報告会

(PBL 報告する学生)

開催日：2010年 2月 25日(木) 14:00～17:00

会場：九経連会議室

主なプログラム

項目	内容
開会挨拶	九経連・情報通信委員会企画部会長 山崎 正幸
議 事	◇実施経過及び能力要素評価結果説明(事務局) ◇PBL成果報告(参加学生) 《参加学生》九工大大学院情報工学府情報システム専攻電子情報工学分野M1 《プロジェクト名》 (1)「春日地区土地開発に伴うアクセス系光ネットワーク設備構築計画の策定」 [受入企業：NTT西日本福岡支店 報告者：田中喜明] (2)「法人営業におけるシステムエンジニアリング業務」 [受入企業：NTT西日本福岡支店 報告者：小田原一弘] (3)「 <b>統合IPネットワークの設計・検証</b> 」 [受入企業：九州電力株式会社 報告者：角田邦真] (4)「 <b>スマートグリッドに関する研究プロジェクト</b> 」 [受入企業：九州電力株式会社 報告者：三次祐輔] (5)「IPv6技術の適用に関する研究」 [受入企業：ニシム電子工業株式会社 報告者：兼崎 望] ◇受入企業・大学の所感(NTT西日本、九電、ニシム、九工大) ◇実施アンケート結果及び次年度の実施計画(展開)について(事務局)
閉会挨拶	九経連・社会資本部副部長 茂島 修三



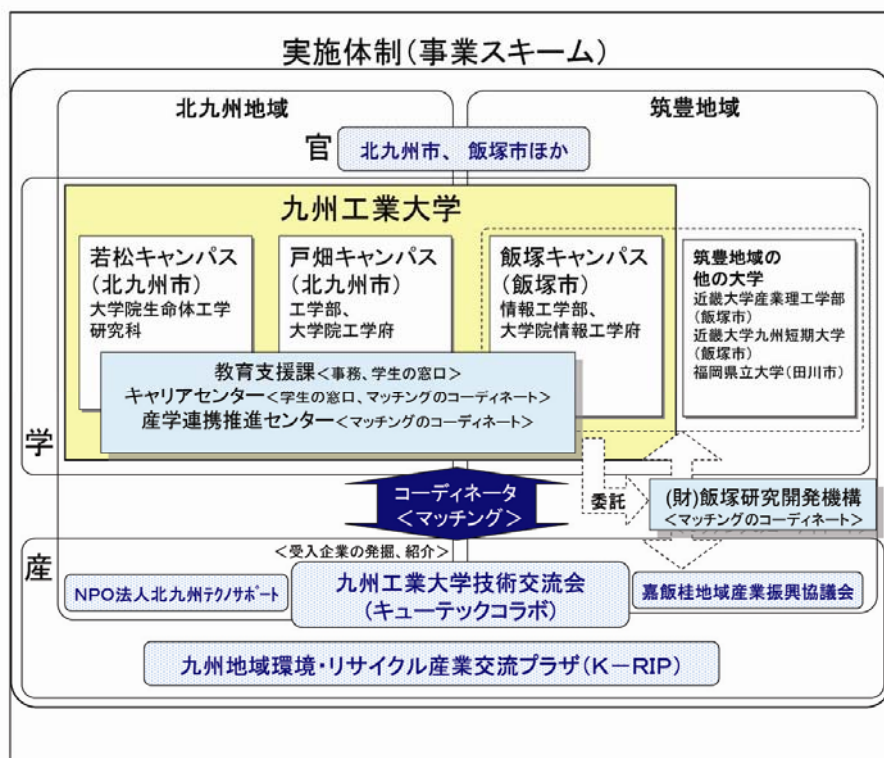
## 資料 1-2-30-②

## ○ 中小企業高度人材確保のための長期企業内実務研修制度整備委託事業

(出典：本学HP)

【平成 20 年度】

事業概要：北部九州地域における地元産業界では、高度人材の確保が大きな課題となっている一方で、北部九州地域の大学を卒業した人材の地元就職率は低いのが現状である。このため、地域で活躍する優秀な中小企業者等に学生の関心を向けさせることが必要であり、九州工業大学が中心となって、地域の産業支援機関や周辺の大学等とのネットワーク体制を形成し、学生のキャリア形成と地元企業への就職率向上に資する実践的長期インターンシップシステムを構築した。



## 資料 1-2-32-①

## ○ 英語自主学习教材 ALC Net Academy

(出典：e-ラーニング事業推進室)

学生時代に英語力を！！  
ALC ネットアカデミーで！！

九州工業大学「ALC ネットアカデミー」  
<http://alc-net.el.kyutech.ac.jp/onet2>

- TOEIC のテスト対策に！  
TOEIC のテスト形式に対応した「スーパースタンダードコース」
- 英文法の基礎から学びたい学部生の方に！  
英語の基本文法を学べる「英文法コース」
- 英語論文を書く(大学職生)に！  
英語文章を書くための「ライティングコース」  
科学技術など専門的な語彙を学べる「技術英語コース」

九州工業大学では、自主学习用英語教材  
「ALC ネットアカデミー」を導入しています

※ ALC ネットアカデミーは、学内の Windows 端末で利用可能です  
※ 利用するには、情報科学センターの教育用アカウントが必要です  
ALC ネットアカデミーの詳細な利用方法については、下記 Web ページを御参考下さい  
[http://alc-net.el.kyutech.ac.jp/doc/alo\\_guide\\_2008\\_01.pdf](http://alc-net.el.kyutech.ac.jp/doc/alo_guide_2008_01.pdf)

問い合わせ先: [netacademy-staff@el.kyutech.ac.jp](mailto:netacademy-staff@el.kyutech.ac.jp)

(出典：学内用学習支援サービス(Moodle))

ALC NetAcademy 2

コース一覧 学リスト 成績 ランキング 個人情報設定 お知らせ 検索 ログイン ログアウト

白木 智行 様

コース一覧

Excellent!!

選択	コース名	選択	コース名
<input type="checkbox"/>	スーパースタンダードコース	<input type="checkbox"/>	技術英語基礎コース
<input type="checkbox"/>	英文法コース	<input type="checkbox"/>	ライティング基礎コース

サブコースへ

- 初回ログイン日  
2010/06/03
- 最終ログインしてから  
1日
- 全コース合計学習時間  
0時間00分00秒
- 現在ログインしている学習者  
(本人を含む)  
4人 (詳細はこちら)

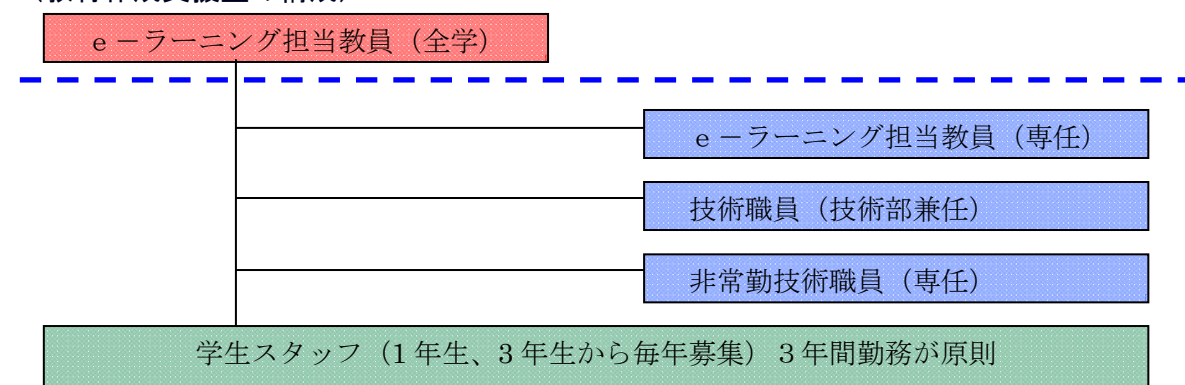
## 資料 1-2-32-②

## ○ 教材作成支援室

(出典：本学HP (教育プレティン))

e-ラーニング事業推進室の下には、アルバイト学生を中心に組織された「教材作成支援室」を設置し、この教材作成支援室は、「ICT 教材のさらなる充実と教育の質的向上を図るために、体系的な教材開発を支援する」ことを目的としています。本来は、「教員が ICT 教材を作成するには、時間的なコストが発生するため、作成をあきらめてしまう教員も少なくない」という問題を解決するために業務を遂行しています。

(教材作成支援室の構成)



## 資料 1-2-32-③

## ○ 遠隔教育・e-ラーニング高等教育連携 (単位互換)

遠隔教育による単位互換に関する協定 (大学院学生対象)

室蘭工業大学、北見工業大学、東京農工大学、東京工業大学、電気通信大学、長岡技術科学大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、京都工芸繊維大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学 計 12 大学

e-ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定

長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、釧路工業高等専門学校、仙台高等専門学校、福島工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、群馬工業高等専門学校、木更津工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、松江工業高等専門学校、徳山工業高等専門学校、新居浜工業高等専門学校 計 18 大学



資料 1-3-44-①

○ 利用者サービス向上状況

(出典 附属図書館)

○ 入館管理システム (平成 20 年度導入)

九工大 IC カード (学生証・職員証等) に対応した入館管理システムを附属図書館の本館と分館に設置し、セキュリティの向上を図るとともに利用状況のお把握により利用者向上を図っている。



**図書館入館管理システム IDEC**

**ユニバーサルゲート**

フレキシブルレイアウトを考慮した入館管理ゲート。

600mm 通行  
900mm 通行

**特徴**

- 600-800mmの幅で自由に幅決めすることが可能です。
- 分館等の館内とをICカードで接続し、LAN接続で動作。設置場所での管理が可能です。
- 色温度の可変LED照明で入館時のモニタリングが可能です。
- 防犯カメラや監視カメラシステムと連携して、監視カメラでICカードの盗難や不正利用が可能です。
- フラワー・照明等の設備を制御できる拡張機能があります。
- 登録カードは、ICカード、バーコードに標準対応です。オプションでRFID対応も可能です。

ネットワークイメージ

○ 自動貸出装置の設置

カウンターでの手続きの省力化



○ 集密書架 (分館)



資料 1-3-44-②

○ 学生選書ツアー

(出典 附属図書館)

学生志向の選書と図書館サポータの育成を目指して学生選書ツアーを実施した。

平成 20 年度 (第 1 回) 選書冊数 365 冊

「選書ツアー」 参加者数：12 名

「バーチャル選書」 参加者数：15 名

平成 21 年度 (第 2 回) 選書冊数 329 冊

「選書ツアー」 参加者数：10 名

「バーチャル選書」 参加者数：13 名

・選書ツアーの様子、展示コーナー、参加者によると図書  
の推薦文をホームページで広報した。

(学生選書ツアーポスター)

図書館に置いて欲しい! その本を選べます  
書店で選ぶ「選書ツアー」  
Webで選べる「バーチャル選書」

読者の声、新刊情報などは「学生による選書」を掲載します。  
「読んで好き、読んでよかった」そんな本は読書仲間には「好き」など、  
本への思いや「人」にとり関心があります。あなたが選んだ本を推薦してください。  
選書した本の冊数は、受け入れ、推薦の多い、同書種の冊数となります。

1 選書ツアー

内 容：読書仲間が選書した本を展示していただく企画です。  
参加人数：全学で1日5回 (グループ別) (1グループ3名まで)  
※本館・分館同時開催し、展示の中心は本館となります。

期 間：2019年11月15日 (金) 14時 ~ 16時 (1回2時間)  
場 所：本館3階読書部 (展示室) 分館(本館・推薦) 推薦受付・推薦受付  
その他：参加者は、選書ツアーのアンケートや推薦した本の推薦文の作成を勧められます。  
問い合わせ：推薦部 推薦部(分館) 093-844-3034

2 バーチャル選書

内 容：11月30日 (日) までに推薦した本をWebで展示していただく企画です。  
参加人数：人数の制限はありません。

※ 応募事項

応募方法：以下の申込書に必要事項を記入し、推薦情報(タイトル・冊数、または  
そのほかのキーワード)を添付してご送付ください。

応募締切：2019年11月30日 (日)  
申込書は「Web」で応募可能。詳細はWebで、見直しは可能です。  
その他：参加者は、選書ツアーのアンケートや推薦した本の推薦文の作成を勧められます。  
問い合わせ：推薦部 推薦部(分館) 093-844-3034  
メールアドレス: kcs@kaiyodai.ac.jp

(発行責任)

発行による推薦書 申込書

希望イベント	<input type="checkbox"/> 展示での選書ツアー <input type="checkbox"/> バーチャル選書
推薦する本のジャンル	*希望するジャンルは複数指定してください。またも希望できます。
氏 名	姓 名
学 部	学年・専攻
連絡先	TEL: <input type="text"/>
推薦文の作成	<input type="checkbox"/> 推薦文を希望する <input type="checkbox"/> 推薦文を希望しない
推薦文の作成	推薦文の作成 <input type="checkbox"/> 推薦文の作成 <input type="checkbox"/> 推薦文の作成

※参加人数については、推薦部からの連絡が有効となります。

資料 1-3-45-①

○ 平成 20 年度 CSI 委託事業報告交流会  
(コンテンツ系) ホスターセッション優秀ポスター賞受賞



資料 1-3-45-②

(平成 21 年度)

○ 第 5 回 DRF ワークショップ  
2009 年、いま改めてリポジトリで講演を実施

資料 1-3-45-③

(出典：本学 HP)

○ Web オープンキャンパス (情報工学部・生命体工学研究科)

(平成 21 年度)

資料 1-3-45-④

(平成 21 年度)

○ 創立 100 周年記念事業 (式典・企画展) と  
企画展「安川敬一郎と戸畑一明専のあるまちー」



## 資料 1-3-48-①

## ○ 九州工業大学における教育職員の評価について (21 年度実施分)

(出典 本学 HP)

## ○ 評価手順

- ① 各教育職員は、教員情報データベース及び教育職員評価シート（重み付けを含む）を入力し、評価申請。
- ② 評価実施組織の担当者は、4つの評価の領域（教育、研究、社会貢献、管理運営）ごとに、5段階の領域別評価を実施。
- ③ 部局の長及び各センター長は、自己申告及び評価実施組織の担当者が行った領域別評価を勘案し、「特に優れている」、「優れている」、「適切である」、「改善の余地がある」、「改善を要する」の5段階評価を決定。併せて申請内容に対するコメントを記載。
- ④ 評価結果を各教育職員に内示。評価結果に対し、異議がある場合は、意見の申立てが可能。
- ⑤ 部局の長及び各センター長は、意見の申立てについて検討を行った上で、学長に報告後、最終的な評価結果を決定し、各教育職員に通知。

## ○ 国立大学法人九州工業大学教育職員評価実施要項（抜粋）

(評価結果の活用等)

第9条 評価結果は、教育職員が次期の評価期間の活動を充実させるために活用するものとする。

- 2 学長及び部局等の長は、評価結果を全学又は部局等の運営等の改善のための資料として活用するものとする。
- 3 「改善の余地がある」又は「改善を要する」との評価を受けた教育職員は、次期の評価期間における「改善計画書」を部局等の長に提出し、改善に努めなければならない。
- 4 部局等の長は、部局等における評価結果の分析及び前項の規定により提出された改善計画書を学長に報告するものとする。

## &lt;具体的な活用内容&gt; (平成 21 年 4 月 3 日 教育研究評議会決定)

- 部局単位での業績等評価配分経費に反映する。
- 昇給等（ボーナス含む）の選考の判断材料として部局長が推薦の際に活用する。

平成 21 年度 業績等評価配分経費について

【研究業績】(70%) 外部資金獲得実績及び研究評価で積算する。

外部資金獲得実績 42%とする。

内訳 21 年度科学研究費の申請件数 . . . . . 14%

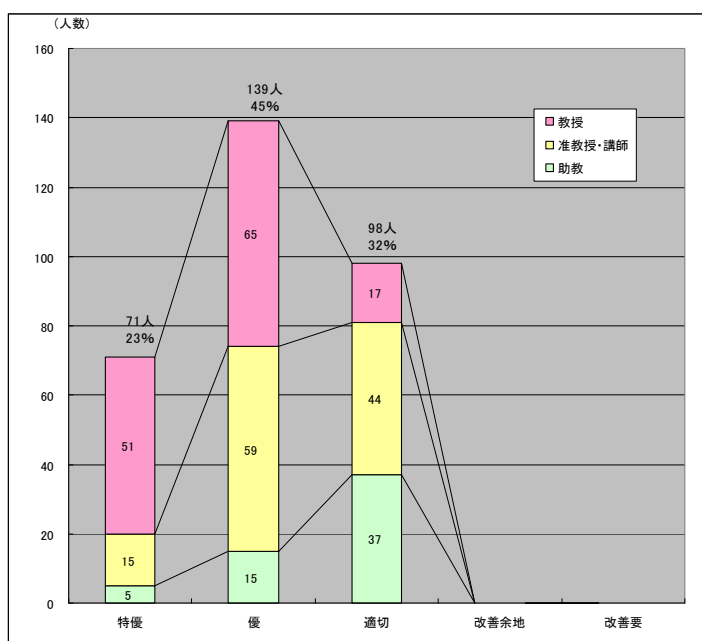
20 年度産学連携等研究費の採択件数 . . . . . 14%

20 年度産学連携・科研費研究費の獲得実績額 . . . . . 14%

研究評価 28%とする。 &lt;実施状況 5段階の総合評価：全体 (308 人) の割合と職階分布&gt;

3 部局（工学部・情報工学部・生命体工学研究科）については、研究評価の率で配分する。

(評価を A : B : C : D 段階とした場合 3 : 2 : 1 : 0 に重み付けし計算する。)



## 資料 1-4-49-①

## ○ 学生生活実態調査結果

(出典：平成 21 年度九州工業大学学生生活実態調査報告書)

## &lt;調査の概要&gt;

## 1. 調査の目的

本学学生の生活実態を把握し、本学における厚生補導業務の運営の参考とし、修学指導上の基礎資料を得ることを目的とする。

## 2. 調査基準日 平成 21 年 7 月 1 日現在

## 3. 調査の対象 平成 21 年 7 月 1 日現在の学部学生、大学院生、外国人留学生の全員とした。

## 4. 調査票の配布・回収方法

調査票の配布は、学部 1 年～3 年生については必修科目の授業で配布・回収し、学部 4 年生・大学院生及び留学生については指導教員を通して調査票を配布・回収した。

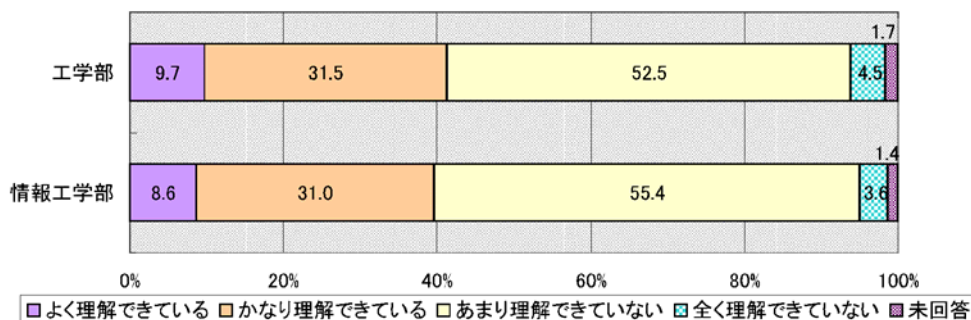
(大学への要望に対する回答は、本学 HP (学内) において学生に周知している。)

## &lt;学習についての回答内容 報告書 P27&gt;

## 4. 全体的にみて授業は理解できていますか

授業を理解できていないとする回答は、学部生で6割程度、工学府が4割強、情報工学府、生命体工学研究科で3割程度である。これは、前回の調査と比較して5%程度減少していて、その分、理解できていると回答している学生が増加しており、改善の傾向にはあるが、更に授業の改善が必要であると思われる。

(学部生)



## 資料 1-4-49-②

## ○ 学習支援室について

(出典：工学部)

設置 平成 21 年 11 月 1 日

場所 附属図書館 4 階 グループ研究室

業務 シニアアカデミーに登録している退職教員などを利用して、学習達成度の低い学生への学習支援システムを構築し、学士力と工学教育の質の向上を図る。

カリキュラム 数学と物理が週に 3～4 回 (4 時間/回)・化学が週 2 回 (4 時間/回) 指導員を置く。

専門基礎科目は、各学科から 2 科目程度実施。

実績 H21.11 月から H22.3 月の実施期間中 ●●● | 学習支援室時間割 13:15～17:00

延べ 468 名の学生が指導を受けた。



月	火	水	木	金
「材料力学」 原田 昭治 学習支援室	「化学」 [15:00～17:00] 中村 美樹 学習支援室	「材料力学」 原田 昭治 学習支援室	「一般化学と有機化学」 吉川 穂久 学習支援室	「制御工学および機械力学」 佐本 正 学習支援室
「制御工学および機械力学」 佐本 正 学習支援室	「一般化学と有機化学」 吉川 穂久 学習支援室			「物理」 山田 知司 学習支援室
「融合工学」 加藤 光昭 学習支援室	「数学(高校の復習・相談)」 藤田 潤 学習支援室			「リサイクル工学」 野口 文男 学習支援室
「物理」 山田 知司 学習支援室				



資料 1-4-51-①

○ キャンパスライフの改善

(出典：学生支援課)

戸畑キャンパス



大学会館食堂 (平成 21 年度)



大学会館ロビー (平成 21 年度)

飯塚キャンパス



オアシス (平成 20 年度)



リフレッシュスペース (平成 21 年度)

資料 1-4-51-②

○ 通学環境の改善 (スクールバスの試行運転実施)

(出典：学生支援課)

＼ JR新飯塚駅・飯塚BC利用者に朗報！  
**スクールバス 試行運転実施**  
 1月18日(月) ▶ 29日(金) ※平日のみ運行  
 主に始業・終業・JRの発着時刻に合わせて1日26便 約20～30分間隔で運行します。  
**期間中 無料**

**のりば案内**  
 JR新飯塚駅バス停 (飯塚バス停)  
 飯塚バスセンター (第3のりば)  
 九工大バス停 (正門階段下)

**飯塚キャンパスへ**  
 ■JR新飯塚駅から15分  
 ■飯塚バスセンターから20分 (JR新飯塚駅経由)

**飯塚キャンパスから**  
 ■飯塚バスセンターへ10分  
 ■JR新飯塚駅へ15分 (飯塚バスセンター経由)

スクールバス運行中、アンケートにお答えいただきます。

九州工業大学 九州工業大学

路線	発着時刻	備考
飯塚BC → 飯塚駅前	8:10	8:25 1階IC
	8:30	9:45 階にのりかえ
	9:40	9:45 10:00 2階IC
	10:05	10:10 10:25 階にのりかえ
飯塚駅前 → 飯塚BC	11:45	11:50 12:05 3階IC
	12:25	12:30 12:45 階にのりかえ
	14:35	14:45 14:50 3階IC
	14:55	15:05 15:10 飯塚駅
飯塚駅前 → 飯塚BC	16:15	16:25 16:30 飯塚駅
	16:35	16:45 16:50 飯塚駅
	18:00	18:10 18:15 3階IC
	18:20	18:30 18:35 飯塚駅
飯塚BC → 飯塚駅前	19:40	19:50 19:55 正門前
	20:15	20:25 20:30 (最終)

日時・場所	平成 22 年 1 月 18 日(月) ~ 29 日(金) 新飯塚駅 ~九州工業大学情報工学部 ~ 飯塚バスセンター
内容	平成 22 年 4 月からのスクールバスの運行に先立ち、2 週間の試行運転を実施。 スクールバスは、3 つの停留所 (JR 新飯塚駅→九工大情報工学部→飯塚バスセンター)を巡回し、授業の始業・終業時刻や、JR の発着時刻に合わせて、平日のみ運行。なお、ご乗車中に、簡単なアンケートを実施



## 資料 1-4-53-①

## ○ ハラスメント防止講演会

【平成21年度】

(出典：学生支援課)

ハラスメント講演会開催案内

講演会会場



## 資料 1-4-53-②

## ○ ハラスメント体制の検討状況

(出典：人事課)

平成17年度から運用してきた現在のキャンパス・ハラスメント体制について、平成21年度に開催したハラスメント講演会の講師より、次のような問題点があげられた。

- ・ハラスメント申し立ての解決手段として、調査委員会での調査の後、関係者の処分に至るというものしかなく、これでは現実的な対応として重すぎるという点
- ・ハラスメント申し立て後の加害者、被害者双方との調整について、正式な手続き方法が明確になっていない点
- ・規則上、キャンパス・ハラスメント相談員が問題解決に努める義務を負っている点

これを受け、今後、キャンパス・ハラスメント防止委員会での検討を行い、キャンパス・ハラスメントの体制作りの見直しと整備及び規則改正を含めて、新たなフロー図等の作成にとりかかることとした。

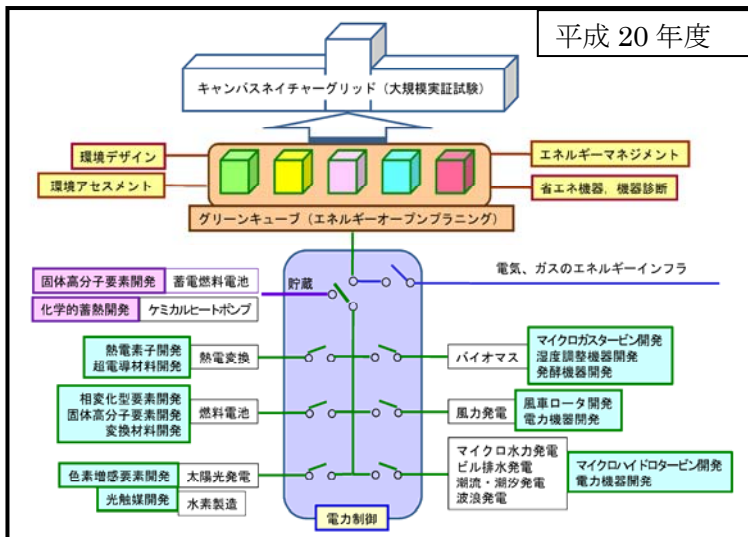
また、同時に全学生・教職員を対象としたキャンパス・ハラスメントに対するアンケート調査を平成22年度中に行うこととし、アンケートの内容、実施方法等をキャンパス・ハラスメント防止委員会において準備を進めることとした。

資料2-1-2-①  
グリーンキューブ実験施設 (学内で撮影)



平成 20 年度設置

資料2-1-2-②  
エコエネルギー研究プロジェクト(出典:学内会議資料)



平成 20 年度

資料2-1-2-③  
若手研究者交流支援事業—東アジア首脳会議参加国からの若手研究者招へい—  
「アジア諸国と協調したエコエネルギーデザイン研究プロジェクト」 (出典:事業申請書)



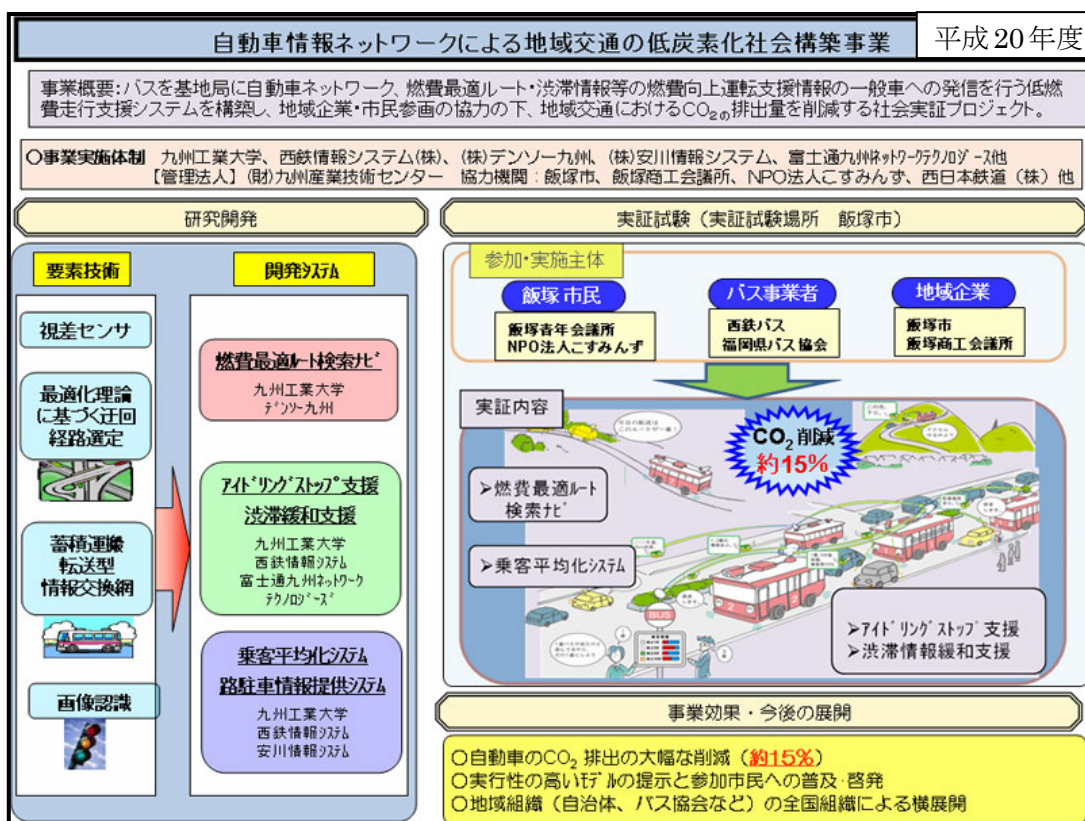
平成 21 年度



資料 2-1-2-④

(出典：経済産業省ホームページ)

経済産業省「低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業」概要



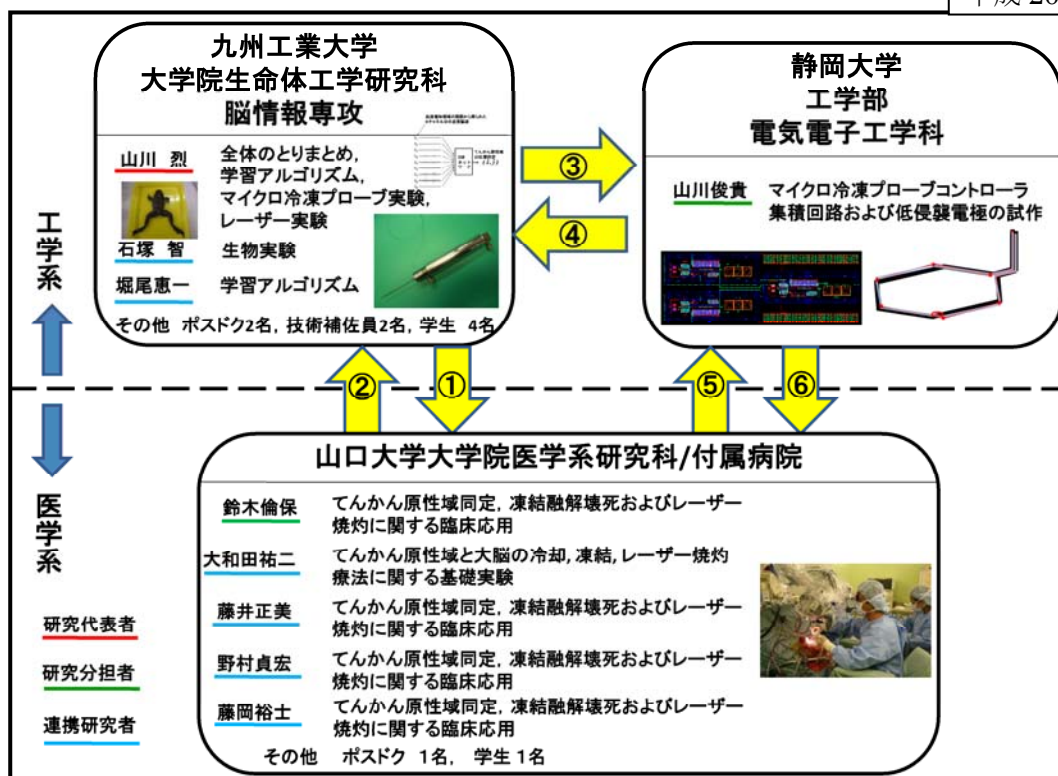
※地元企業との連携による柔軟な研究体制を構築している

資料 2-1-2-⑤

(出典：研究進捗状況報告書)

ソフトコンピューティング技術による「てんかん」原性域の特定と低侵襲治療法の確立

平成 20 年度



※臨床研究機関を有する他大学との医工学連携体制を構築している

## 資料 2-1-2-⑥ エコ大学ランキング結果

(出典：第1回エコ大学ランキング報告書)

平成 21 年度



## 資料 2-1-5-① 教育研究プロジェクト推進会議

(出典：研究協力課)

## 【工学研究院教育研究プロジェクト推進会議】

競争的資金等による教育研究プロジェクトに係る企画立案を行うために、平成 20 年 4 月 1 日設置。

構成員は研究院長・副研究院長・各系より 1～2 名・事務長 (計 10 名)。

(平成 20～21 年度に検討・推進した研究プロジェクト)

- ・エコエネルギー研究プロジェクト (資料 2-1-2-①②、2-1-15-①参照)
- ・資源ソリューションプロジェクト
- ・環境研究プロジェクト
- ・防災プロジェクト
- ・ナノテクノロジー研究プロジェクト
- ・パワーデバイス技術の集積による次世代グリーンエレクトロニクス研究推進プロジェクト (資料 2-1-15-②参照)

## 資料 2-1-5-② 若手研究者交流事業での交流相手機関

(出典：事業申請書)

国名	機関名	国名	機関名
インドネシア	バンドン工科大学	タイ	コンケン大学
タイ	タマサート大学	ベトナム	ベトナム農工大学
タイ	キングモンクット大学	インド	インド工科大学デリー校
タイ	チュラロンコン大学	インド	テリ大学
タイ	アジア工科大学	—	—

平成 21 年度

## 資料 2-1-6-① 発展・高度化させた研究プロジェクトの事例

(出典：研究協力課)

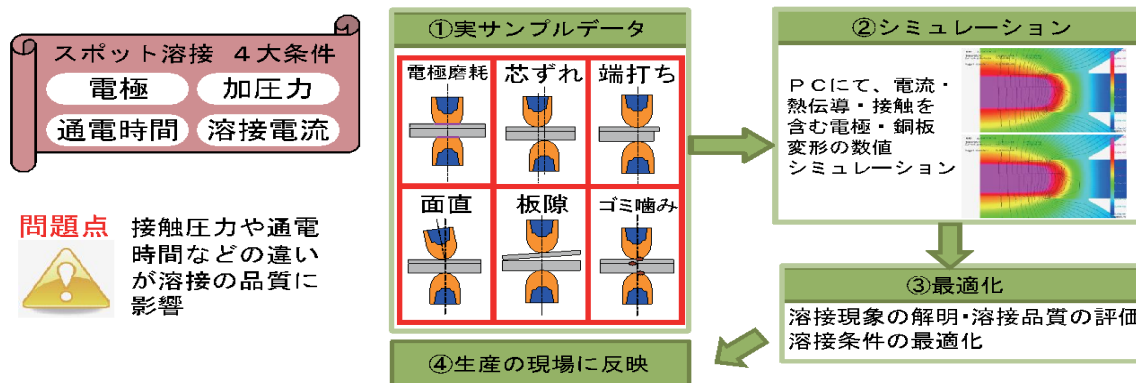
平成 20 年度採択分	平成 21 年度採択分
JST 重点地域研究開発推進プログラム (シーズ発掘試験) 「データ圧縮と情報検索アルゴリズムの融合」	JST 戦略的創造研究推進事業個人型研究 (さきがけタイプ) 「圧縮データ索引に基づく巨大文書集合からの関連性マイニング」 JST 地域イノベーション創出総合支援事業・重点地域研究開発推進プログラム「シーズ発掘試験」 「データ圧縮の理論に基づく超大規模データ検索の実現」 ※ 2 件の研究プロジェクトに進展 (研究費約 8 倍)
JST 戦略的創造研究推進事業 (CREST) 「生物分子トモグラフィシステムの開発」	JST 先端計測分析技術・機器開発事業「電子顕微鏡のための画像処理サーバの構築をめざしたプラットフォーム開発」 ※ 隣接する研究プロジェクトが追加採択

## 自動車産業との研究開発

平成20年度

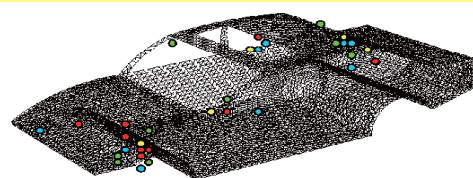
地場の企業と連携をとり、自動車産業の発展へ向け、技術開発・即戦力となる人材育成に取り組む、貢献しています。

## 「抵抗スポット溶接におよぼす接触効果の連星FEM解析」 堀江 知義 教授



## 「塗装乾燥炉の微粒子挙動」

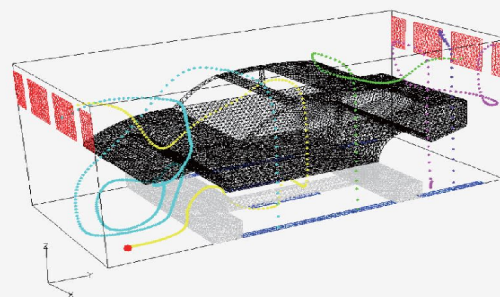
永山 勝也 准教授



塗装工程において、塗料が乾く前に微粒子が付着した場合、後工程で取り除く手間がかかる。

微粒子の挙動を解明し付着を低減。

## CAD設計+流動解析



## 【世界トップレベルの研究が具備すべき条件】

世界トップレベルの研究を定義するにあたっては、社会的評価を得ていることを実証することが必要です。そのため、次の三つの要素が必要条件となります。

- (Ⅰ) 研究業績 (基本特許等の知的財産権を含む) 及び社会的評価としての受賞
- (Ⅱ) 国際的な関連学会等における招待講演の実績
- (Ⅲ) 外部からの研究資金の導入実績

※その他、研究業績、招待講演実績、外部資金及び外部評価の個々の条件について定めている。

## 資料 2-1-8-② 九工大発の先進的研究の例

(出典：本学ホームページ)

平成 20 年度

## 九工大発の先進的研究の例

- 「土漆喰植木鉢手作りキット『エコポ』」
- 「Preparation of S-doped TiO<sub>2</sub> photocatalysts and their photocatalytic activities under visible light」(共著)
- 「DNA sensing on a DNA probe-modified electrode using ferrocenylnaphthalene diimide as the electrochemically active ligand」(共著)
- 「Desorption related to adsorption of hydrogen via detailed balance on the Si(100) surfaces」
- 「Behavior of Transverse Ridges Passing Through a Circular EHL Conjunction」(共著)
- 「Thermodynamic Analysis of the Fe-Al-C Ternary System by Incorporating ab initio Energetic Calculations into the CALPHAD approach」(共著)
- 「発電用耐熱鋼のクレープ損傷解析と開発・実用化」
- 「Number of arcs estimated on solar array of a geostationary satellite」(共著)
- 「コスモスケジューラDのソフトウェア開発」(共同開発)
- 「Analysis and synthesis of weighted-sum functions」
- 「Surviving heat shock: Control strategy for robustness and performance」(共著)
- 「Service oriented mobility management architecture for seamless handover in ubiquitous networks」(共著)
- 「The Truncated Model and Its Applications to Lifetime Analysis: Unified Censored and Truncated Models」
- 「The dependence of pinning properties on superconducting layer thickness in IBAD/PLD YBCOcoated conductors」(共著)
- 米国特許「CMIS semiconductor nonvolatile storage circuit」
- 「Protein-DNA Recognition Patterns and Predictions」(共著)
- 「ProTherm and ProNIT: Thermodynamic Databases for Proteins and Protein-Nucleic Acid Interactions」(共著)
- 「アナログ・デジタル融合方式LSI技術による脳型視覚システム」
- 「Phase dependent transition between multi-stable states in a neural network with reciprocal inhibition」(共著)
- 「Unipolarization of ambipolar organic field effect transistors toward high-impedance complementary metal-oxide-semiconductor circuits」
- 特許「ゴミの減量方法」/特許「アルコール生産システムおよびアルコール生産方法」(共同発明)

## 資料 2-1-8-③ 学内の大型研究グループの促進

(出典：学内通知)

(抜粋)

## 平成 21 年度研究戦略経費の新規配分について (公募)

平成 21 年度における研究戦略経費の新規配分については、グローバル COE 又はこれに類する競争的大型外部資金に応募できるような全学規模の研究拠点の創成・形成経費として、学内公募により集中的な経費配分とすることが戦略会議(企画)において決定されました。

つきましては、この趣旨に即して、下記のとおり、公募を行いますので、優れた研究推進プロジェクトの提案をお願いします。

なお、今年度から申請様式を変更しておりますのでご注意ください。

## 記

## 1. 応募要件

応募は次のいずれかの要件に該当するプロジェクトであること。

- ① 複数の研究グループが連携して行う部局単位のプロジェクト
- ② 複数の研究グループが連携して行う部局(学内研究プロジェクトセンターを含む)横断型プロジェクト
- ③ 学内研究プロジェクトセンターの発展解消・改組等による飛躍的な研究拠点を形成するプロジェクト
- ④ 大学執行部からグループ形成を依頼したプロジェクト

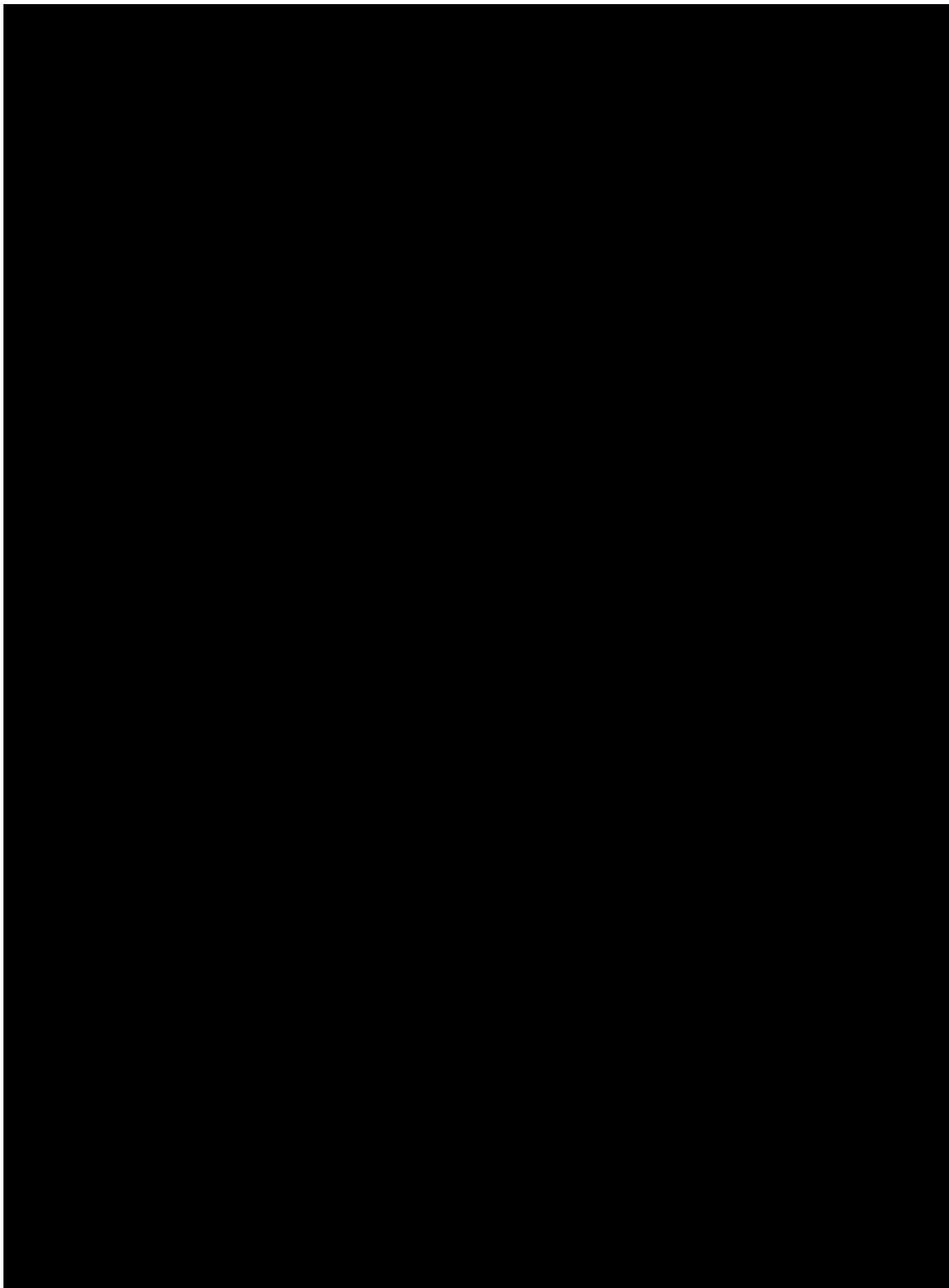
## 2. 申請金額

20,000千円～30,000千円程度とする。ただし、採択額については、応募状況等を踏まえ適宜調整する。

資料2-1-8-④ 平成20・21年度の卓越した研究一覧

(出典：大学評価室)

※別途提出の「学部・研究科等の研究業績」と同内容



## 資料 2-1-9-① 英文校正・論文掲載費用補助制度

(出典：学内通知)

(抜粋)

平成 21 年 9 月 11 日

女性研究者  
若手研究者 各位

研究戦略室長

英文校正・論文掲載費用補助制度について

1. 対象者：女性教育職員及び満 42 歳以下（平成 21 年 4 月 1 日現在）の若手教育職員

※平成 20 年 8 月時点では、対象年齢を男女問わず 37 歳以下としていたが、平成 21 年 1 月には対象年齢を 42 歳まで引き上げ、平成 21 年 9 月には、女性研究者の年齢制限を撤廃した。

## 資料 2-1-9-② 英文校正・論文掲載費用補助制度の利用実績

(出典：研究協力課)

	人数	件数	金額(円)
平成 20 年度	9	12	446,927
平成 21 年度	21	39	1,284,012

## 資料 2-1-9-③ 研究戦略室の取組

(出典：研究協力課)

年度	実施事項
21	研究環境の問題点把握や改善策検討のために、各部署の若手教育職員 9 名にインタビュー実施 (1)
21	研究環境の問題点把握や改善策検討のために、科研費未申請者 27 名にインタビューを実施 (2)
21	科研費の申請書作成マニュアル作成・学内公開及び講習会開催
21	過去に採択された科研費の研究計画調書を学内公開
20~21	若手・女性研究者育成のための講演会を計 3 回開催
20~21	英文論文校正・掲載費用補助制度の創設、支援対象年齢引上げ、女性研究者の年齢制限を撤廃 (3)
21	研究戦略室の機能強化及び部署との情報伝達の円滑化のため、各部署の副研究院(科)長を研究戦略室員として増員 (4)
21	競争的大型外部資金獲得と全学的な研究グループの形成促進のため、研究戦略経費を従前と比べて重点的に配分するよう変更 (5)
21	全教育職員の外部資金・論文採択数・論文引用数・研究キーワードを調査し、本学における研究競争力分析の基礎資料を整備 (6)
21	部署内だけでなく全学的視野に立脚した提案を部署執行部が行えるよう、上記基礎資料を各部署執行部に提供して共有 (7)

## 資料 2-1-9-④ 主要論文掲載数・主要国際会議発表数の推移

(出典：研究協力課)

年度	15	16	17	18	19	20
発表論文 A (査読付定期刊行物)	231	255	222	273	278	360
(対平成 15 年度比増加率(%))	-	10.4	-3.9	18.2	20.3	55.8
(対平成 18 年度比増加率(%))	-	-	-	-	1.8	31.9
発表論文 B (査読付国際会議)	138	185	205	196	243	274
(対平成 15 年度比増加率(%))	-	34.1	48.6	42.0	76.1	98.6
(対平成 18 年度比増加率(%))	-	-	-	-	24.0	39.8
発表論文 A・B 合計	369	440	427	469	521	634
(対平成 15 年度比増加率(%))	-	19.2	15.7	27.1	41.2	71.8
(対平成 18 年度比増加率(%))	-	-	-	-	11.1	35.2

## 資料 2-1-12-① 外部評価委員からの指摘事項等 (出典：本学ホームページから抜粋)

センター名	平成20.21年度 評価・意見・指摘事項等(抜粋)
宇宙環境技術 研究センター	・スタッフの役割分担を明確にし、センターの運営を円滑に行うこと。 ・外部資金の獲得、衛星等の打ち上げ等による教育研究活動、社会貢献等については順調なので今後の事業の進展に大きな期待をしている。
ネットワークデザイン 研究センター	・ネットワーク技術を生かして、産官学の有機的な連携を推進できるような活動を期待したい。 ・来年度の文部科学省特別研究経費については見込みが立っていないので今後の動向について注視すること。
バイオマイクロセン シング技術研究セン ター	・現在行っている歯工学連携についての成果については期待できるのでさらに発展させて欲しい。更には医歯工連携へ発展させて欲しい。 ・センター構成員の研究成果は国際シンポジウムなどで公表しているが、更に広く広報することが重要である。
エコタウン実証研究 センター	・低炭素化は地球規模のテーマであり、竹林の有効活用は的を得ていると思う。障害者を含む地域での雇用創出等、NPO との連携による地域の活性化は市の望むところでもある。また、東アジアに限らず中国、韓国も視野に入れておいた方がよい。 ・規模が段々大きくなっていくと、これまでの体制では新しい取り組みに対処しきれないのではないか。企画する人が全てを実行することは無理なので、それだけの組織とスタッフを整える時期に来ていると思う。大学とNPOとの関係も外部から見ても分かるように整理しておくことも大切なことである。
先端金型センター	・大学の中で先端技術を支える基盤技術に関係する人材育成が予算確保を含めて難しくなっているように思われる。その中で本センターの活動は全国ネットであるし、九工大が強いように思われる。 ・国からの予算確保は厳しい状況である。産業界や県からも本センターの必要性は認識頂いているので、産業界・県の支援を得る努力を継続する必要がある。
ヒューマンライフIT開 発センター (現 産学連携推進セ ンター若松分室)	・センターの活動は十分評価に値する。と同時に5年で設置したセンターを予定通りに打ち切るといふ大学の判断も評価に値する。 ・人の安全・安心な生活のための、人にとって代わるロボット的应用、防犯監視システムの研究開発は益々必要となり期待されると予想される。このように、今、世の中で要求されているものを、大学側から提供する体制も必要かと思われる。
先端エコフィッテング 技術研究開発セン ター	・前回(第一回評価委員会)から比して、萩原教授 G などでは、学術論文、学会発表、に加え、競争力が見込める特許が出されている。 ・目的は何か、進めるべき内容(教育、研究などの目的と意義)は何かが重要であって、センターを継続して応用展開という目的を達成するのであれば、あらゆる方法(資金など)を早めに検討すべき。

## 資料 2-1-12-② 外部評価の掲載例 (出典：本学ホームページ)

## 九州工業大学エコタウン実証研究センター

Eco-Town Collaborative R&D Center for the Environment and Recycling,  
Kyushu Institute of Technology

<a href="#">トップページ</a> <a href="#">センターの前身と沿革</a> <a href="#">設立目的</a> <a href="#">センターの特徴</a> <a href="#">研究内容</a> <a href="#">情報公開</a> <a href="#">センターの来館者数</a> <a href="#">組織図</a> <a href="#">職員紹介</a> <a href="#">お問い合わせ</a>	<a href="#">トップページ</a> > <a href="#">外部評価</a> <h3 style="margin: 5px 0;">外部評価</h3> <p style="font-size: small; margin: 5px 0;"> <a href="#">平成21年度九州工業大学エコタウン実証研究センター評価委員会議報告(外部評価)</a>  <a href="#">平成20年度九州工業大学エコタウン実証研究センター評価委員会議報告(外部評価)</a>  <a href="#">平成19年度九州工業大学エコタウン実証研究センター評価委員会議報告(外部評価)</a> </p> <p style="font-size: x-small; margin: 5px 0;">           ※このPDFファイルはセキュリティのため、編集・印刷・テキストのコピーは行えません。            ※PDFは別ウインドウで開きます。開いたウインドウはリサイズ可能です。         </p> <p style="text-align: right; font-size: x-small; margin: 5px 0;">▲このページのトップへ</p>
---	--

## 資料 2-1-12-③ 研究成果発表会実績 (出典：研究協力課)

センター名	件名	場所	年月日	共催
(センター合同)	世界トップ技術セミナー	福岡市	H22. 2. 8.	—
宇宙環境技術研 究センター	第5回衛星搭載太陽電池アレイ帯電・放電試験方法国際標準化ワーク ショップ	戸畑キャンパス	H21. 10. 26. ~28.	—
	第6回宇宙環境シンポジウム	北九州市	H21. 10. 29. ~30.	JAXA
ネットワークデ ザイン研究セン ター	国際ワークショップ WIND' 08	北九州市	H20. 12. 4. ~5.	—
	第5回 NDRC コロキウム	センター東京ラボ	H20. 12. 19.	—
	国際ワークショップ WIND' 09	バルセロナ(スペイン)	H21. 11. 5.	—
	九州リサーチセンターワークショップ 2009	北九州市	H22. 1. 29.	NIC・阪大
	第6回 NDRC コロキウム	センター福岡ラボ	H22. 3. 10.	—
バイオマイクロ センシング技術 研究センター	日韓合同シンポジウム	戸畑キャンパス	H20. 5. 23.	—
	バイオマイクロセンシング技術研究センター成果報告会「センターの目指す次世代 バイオ・ナノ・環境技術」	戸畑キャンパス	H20. 12. 9.	—
	歯工学連携キックオフシンポジウム・歯工学連携の目指す生活の質 (QOL)の向上	戸畑キャンパス	H21. 1. 16.	—
	Korean Electronics Technology Institute(KETI)と九州工業大学によるワークシ ョップ "Development of novel intelligent nano materials"	若松キャンパス	H21. 10. 15.	—
	第二回バイオセンシング技術に関する日韓シンポジウム	戸畑キャンパス	H21. 11. 13.	—
エコタウン実証 研究センター	第8回九州工業大学国際環境フォーラム	戸畑キャンパス	H22. 3. 13.	—

## 資料2-1-13-① 研究戦略室の室員の増強

(出典：大学評価室)

(旧)	(新)	平成21年度
副学長(研究戦略担当)	副学長(研究戦略担当)	
工学研究院の専任の教授、准教授及び講師の中から推薦された者1名	副工学研究院長の中から推薦された者1名	
情報工学研究院の専任の教授、准教授及び講師の中から推薦された者1名	副情報工学研究院長の中から推薦された者1名	
生命体工学研究科の専任の教授、准教授及び講師の中から推薦された者1名	副生命体工学研究科長	
学長が指名する者若干名	工学研究院の専任の教授、准教授及び講師の中から推薦された者1名	
	情報工学研究院の専任の教授、准教授及び講師の中から推薦された者1名	
	生命体工学研究科の専任の教授、准教授及び講師の中から推薦された者1名	
	学長が指名する者若干名	

## 資料2-1-13-② 教員別外部資金獲得金額・主要論文掲載数一覧表

(出典：研究協力課)

※原本は黒塗りなし

平成21年度

個人番号	漢字氏名	年齢	職名	現所属	現係	任免因	科研費	共同研究	受託研究	寄附金	その他(助成金)	論文A	論文B	外部資金計	論文計
			教授				341,298	0	0	0	0	0	0	341,298	0
			教授				0	63,339	4,000	7,200	0	0	0	74,539	0
			教授				0	0	67,143	800	0	0	0	67,943	0
			教授				0	0	65,568	0	0	1	0	65,568	1
			教授				25,870	7,875	31,388	0	0	1	8	65,133	9
			教授				1,600	6,600	47,520	2,000	0	5	4	57,720	9
			教授				0	4,656	48,037	2,800	0	0	0	55,493	0
			教授				13,910	0	0	35,400	0	3	3	49,310	6
			教授				20,260	16,500	5,780	220	4,500	9	15	47,260	24
			准教授				0	1,960	42,182	0	0	0	4	44,142	4
			教授				9,620	25,505	1,050	1,500	6,000	4	14	43,675	18
			教授				2,600	315	33,896	300	0	0	0	37,111	0
			教授				16,380	0	10,000	6,300	0	0	0	32,680	0
			教授				6,240	1,000	25,009	0	0	0	5	32,249	5
			准教授				2,080	840	28,812	0	0	1	0	31,732	1
			教授				1,560	8,000	17,231	0	0	0	0	26,791	0
			教授				0	0	500	24,750	0	0	0	25,250	0
			教授				4,660	0	17,550	500	0	3	0	22,710	3
			教授				0	0	19,589	1,500	0	1	0	21,089	1
			准教授				2,600	0	17,873	0	0	0	0	20,473	0
			教授				12,460	600	6,196	0	0	2	1	19,256	3
			教授				15,210	0	3,623	0	0	3	0	18,833	3
			准教授				0	0	0	0	18,200	3	0	18,200	3
			准教授				2,990	5,450	5,000	0	4,676	1	1	18,116	2
			准教授				2,730	0	2,000	2,860	10,270	1	0	17,860	1
			教授				0	1,500	15,335	735	0	0	0	17,570	0
			准教授				0	0	17,300	0	0	1	0	17,300	1
			教授				0	8,753	2,000	6,500	0	3	0	17,253	3
							(略)								
			助教				0	0	0	0	0	0	0	0	0
			准教授				0	0	0	0	0	0	0	0	0
			(計)				482,068	152,893	534,582	93,365	43,646	42	55	1,306,554	97

- ※ 年齢は、平成21年4月1日現在。
- ※ 科研費は、代表者の採択金額のみ記載・間接経費含む。
- ※ 共同研究・受託研究は、直接経費と間接経費の合計金額。
- ※ 寄附金は、寄附講座充当分は含まない。
- ※ その他(助成金)は、NEDO Grant、FAIS助成金が該当。
- ※ 論文Aは査読付き主要学会誌の掲載本数、論文Bは査読付き主要国際学会発表件数。
- ※ 論文A・Bは教員情報データベースに各教員が入力したのから集計。
- ※ 全項目とも、平成20年度分の集計。
- ※ 平成21年4月1日以降に着任した教員については、外部資金 論文数とも記入していない。



資料 2-1-13-③ 若手研究者や女性研究者を育成する研修会及び講習会（出典：議事次第、新聞記事）

○新聞に取り上げられた「キャリアとしての女性博士研究者」講演会

西日本新聞 21.10.22. (木) 朝刊 22面  
北九州・京築版より抜粋

この部分は著作権の関係で掲載できません。

○ 科学研究費補助金の不正使用防止及び内部監査等に係る学内説明会

【日時】 平成 21 年 9 月 30 日 (水) 14:00~15:30  
【場所】 戸畑 (図書館 A V ホール)  
飯塚 (A V 講演室) ※  
若松 (講義室 1) ※ (※戸畑から中継)

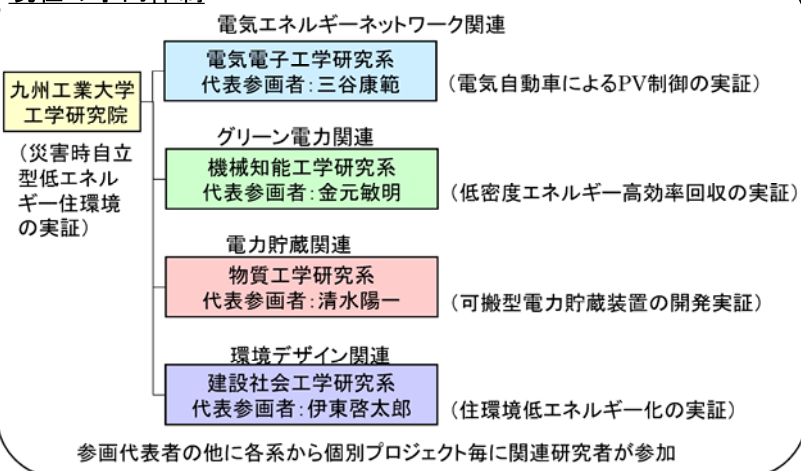
14:00~14:05 挨拶 (松永副学長 (産学連携担当))  
14:05~14:25 科学研究費補助金の不正使用防止及び内部監査等について (会計課専門員)  
14:25~14:55 科学研究費補助金の主な変更事項及び留意事項について (研究協力課課長補佐)  
14:55~15:10 質疑応答  
15:10~15:30 科学研究費補助金申請書作成マニュアルについて (水垣副学長 (研究戦略担当))

資料 2-1-15-① 「エコエネルギー研究プロジェクト」における研究体制（出典：学内会議資料）

現在の学内体制

平成 20 年度

※工学研究院 7 研究系のうち  
4 研究系が参画



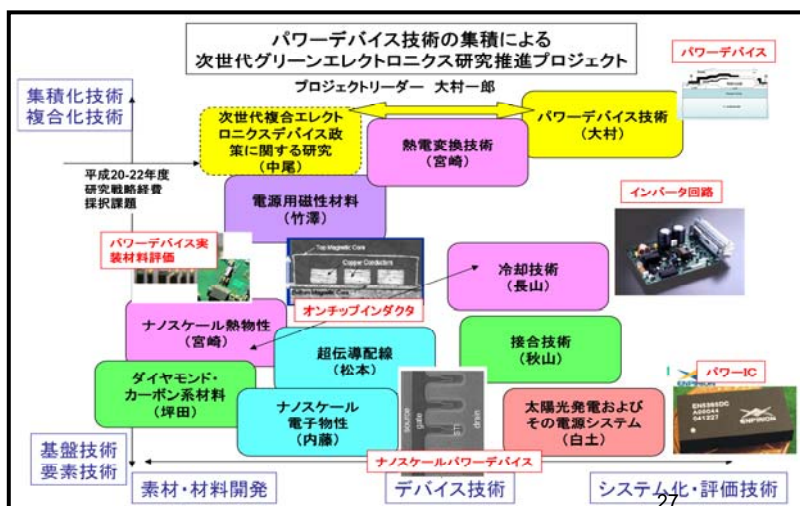
資料 2-1-15-② 「パワーデバイス技術の集積による次世代グリーンエレクトロニクス研究推進プロジェクト」における研究体制（出典：学内会議資料）

平成 20 年度

【各教員の所属】

大村、白土、内藤 → 電気電子工学研究系  
長山、宮崎 → 機械知能工学研究系  
秋山、坪田、松本 → 物質工学研究系  
竹澤 → 先端機能システム工学研究系  
中尾 → 基礎科学研究系

※工学研究院 7 研究系のうち 5 研究系が参画



## 資料 2-1-17-① RA 及び RA 指導教員へのアンケート調査

(出典：学内資料)

平成 20 年度

(抜粋)

## RA アンケート集計結果

(RA) : 72 名回答 / 118 名 (回答率 61.0%)

(1) RA に雇用されることによって、研究に従事できる環境が向上しましたか。

はい : 70 (97.2%)    いいえ : 2 (2.8%)

(2) RA の雇用制度を今後も継続して欲しいですか。

はい : 72 (100.0%)    いいえ : 0 (0.0%)

(3) RA に雇用されることで改善されたことや、RA の雇用制度についてご意見その他ありましたら、お書きください。

研究に専念できた。	15
経済的負担が減った。	15
支給期間を拡大してほしい。	7

(RA 指導教員) 48 名 / 66 名 (回答率 72.7%)

(1) RA の雇用によって、研究効率が向上しましたか。

はい : 45 (93.8%)    いいえ : 2 (4.4%)    どちらともいえない : 1 (1.8%)

(2) RA の雇用制度を今後も継続して欲しいですか。

はい : 45 (93.8%)    いいえ : 1 (1.8%)    どちらともいえない : 2 (4.4%)

(3) RA の雇用によって改善されたことや、RA の雇用制度についてご意見その他ありましたら、お書きください。

研究に専念できる環境につながっている。	12
博士後期課程の定員確保に必要な制度である。	6
経済的負担が減って進学を助けている。	5
博士後期課程への進学を勧めやすくなる。	4

## 資料 2-1-27-① Web による物品検索機能

(出典：物品請求システム)

平成 20 年度機能追加

品名規格検索   業者検索   終了

---

品名・規格に含まれるキーワードを入力してください。

この検索は、会計課で取り込んだ後のデータを検索しますので、  
物品請求者が入力したとおりの文字列ではヒットしない場合があります。

全ての文字列を含む

## 資料 2-1-27-② 学内共同教育研究施設等の保有機器の学内利用実績の推移

(出典：研究協力課)

※ 単位：円

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
機器分析センター	4,429,521	4,526,048	4,491,844	5,193,289	5,229,312	4,829,515
マイクロ化総合技術センター	0	0	0	423,475	116,700	179,350
先端金型センター	0	0	0	12,050	0	0
合 計	4,429,521	4,526,048	4,491,844	5,628,814	5,346,012	5,008,865
対H16比増加率 (%)	—	2.18	1.41	27.08	20.69	13.08

## 資料 3-1-12-①

## ○ 平成 21 年度チューターとの懇談会実施報告書及び国際連携推進室要項（抜粋）

- ・平成 21 年度チューターとの懇談会実施報告書 (出典 学生支援課)

## 1. 実施目的

チューター制度については従前から導入し外国人留学生の学習・研究効果の向上に効果をあげているが、今後の留学生の積極的な受け入れに向けて大学として受入態勢をより一層充実させるためチューターが抱える問題点について意見交換を行い、既存の制度の充実を図る。

## 2. 実施状況

キャンパス・開催日	出席者
戸畑 6月18日(木)	チューター21名 副学長、工学部長、学務部長、学生支援課長、工学部事務長、留学生係
飯塚 6月10日(水)	チューター12名 副学長、情報工学部長、許准教授、 学生支援課長、学生支援課長補佐、情報工学部事務長、留学生係、情報工学部事務担当者
若松 6月9日(火)	チューター5名 副学長、生命体工学研究科長、学務部長、学生支援課長、学生支援課長補佐、 生命体工学研究科事務長、留学生係、生命体工学研究科事務担当者

(チューターとの懇談会・戸畑)

- ・九州工業大学大学院情報工学研究院国際連携推進室要項 (抜粋)

第2条 国際室は、国際化教育、学生の海外派遣、留学生の受け入れ、海外組織との国際連携等の円滑な運営、実施を支援することを目的とする。

国際室が扱う支援活動の例を以下に示す。

- ・海外大学・研究機関等との連携活動（ダブルデグリー）や協定締結支援
- ・海外大学間協定締結大学や窓口教員との連絡
- ・教育G P（現代G P、特色G Pなど）に採択された海外連携プログラム
- ・学生の海外派遣
- ・留学生の受け入れ
- ・講師の招聘



## 資料 3-1-12-②

## ○ 新たな支援事業

(出典 学生支援課)

- ・九州工業大学100周年記念事業21世紀教育基金大学院博士後期課程外国人留学生奨学事業公募要領 (抜粋)

## 1. 目的

本事業は、優秀な大学院博士後期課程の外国人留学生を対象に、安心して学業に専念できる環境を整備するため、経済的支援を実施することを目的とする。

## 2. 応募資格

九州工業大学大学院博士後期課程に、平成21年4月以降に入学した外国人留学生を対象とする。

## 3. 応募要件

- a. 学業成績、人物ともに優れ、心身ともに健康な者。
- b. 経済的支援を行うことにより、学業に専念できること。

## 4. 支援額、採択人数

- ① 他の奨学金と合わせて月額50,000円を保証し、その差額を奨学金として給付する。
- ② 採択人数は5～6名程度とする。

※平成21年度は、4名の申請があり、全員採用

- ・博士後期学生授業料免除状況（平成21年度）

	私費留学生数	授業料免除申請者数	全額免除許可者数	備考
H21前期	22	17 (77%)	17 (100%)	未申請者は留年者、休学明けの留学生
H21後期	26	21 (81%)	21 (100%)	未申請者は留年者

## 資料 3-1-14-①

## ○ 日本語補講及び「科学技術日本語」について

(出典 学生支援課)

## ・平成21年度外国人留学生のための日本語補講の実施要項 (抜粋)

## 1. 実施目的

近年の留学生の増加に伴い、日本語を十分に習得せずに来日する留学生も数多くおり、入学してもすぐに研究活動等に取り組めない者が在学する現状がある。このため、学外非常勤講師2名を委嘱し、研究活動及び日常生活に必要な会話力を向上させ、日本語教育の充実を図るため、戸畑キャンパスと飯塚キャンパスにおいて日本語補講を実施する。また、若松キャンパスにおいては学術研究都市語学教育センターの日本語講座を受講させる。

## 2. 内容

本学の外国人留学生に対し、研究活動及び日常生活に必要な日本語会話能力を習得させる。

## 3. 講師

戸畑キャンパス XXXXXXXXXX (元 JICA九州国際センター日本語非常勤講師)  
 飯塚キャンパス XXXXXXXXXX 福岡教育大学日本語非常勤講師  
 若松キャンパス 学術研究都市語学教育センター講師

## 4. 実施場所

人間科学演習室  
 国際交流ルーム  
 学術研究都市内早稲田大学講義室

## 5. 経費

運営費交付金 (留学生経費)

## ※平成21年度日本語補講謝金及び受講料

1,402,950円 (戸畑・飯塚キャンパス日本語補講謝金)

420,000円 (若松キャンパス日本語講座受講料)

## ・「科学技術日本語」(大学院情報工学府シラバス)

大学院基礎科目 選択科目1単位

## (授業の概要)

理工学専攻の外国人留学生の基礎的な科学技術用語の習得、科学技術分野の表現能力、実験・研究レポート及び論文作成能力の向上を図るため、中級日本語以上の受講者に講義及び演習を行う。

## (カリキュラムにおけるこの授業の位置付け)

この科目は、本学部で行われている一連の日本語・日本事情科目(「日本語補講」、「日本語A」、「日本語B」、「日本語C」および「日本事情」)の延長線上に位置づけられるものであるため、その前提科目を履修するとともに中級以上の日本語レベルを有する外国人留学生を前提として講義を行う。本科目は、学部との共同開講するもので、実験レポートをはじめ、卒論・修論・D論などの実践的な学術日本語の読解・作成を目指す。

## (授業の達成目標)

この講義は、外国人留学生が情報工学研究科における学習教育目標のである(A)「技術者としての豊かな国際性、社会性、「倫理観」および(B)「英語を含む論理的なコミュニケーション能力」を達成するために、日本語で科学技術のコミュニケーションできることを具体的な目標とする。

「科学技術日本語」(飯塚キャンパス) 大学院留学生の受講者数

	受講者数
平成19年度	3人
平成20年度	1人
平成21年度	6人

## 資料 3-1-14-②

## ○ 市民ボランティアによる日本語講座 (飯塚キャンパス)

(出典 学生支援課)

「留学生フロント」(留学生や外国人研究者及びその家族を中心にした外国人への日本語教育及び日常生活の様々な支援を行っている、飯塚市のボランティア団体)により実施している。

## ・日本語講座初級・中級

日時：第1、第2、第4土曜日の14時～17時 場所：飯塚市二瀬公民館